

会議結果報告書

平成29年10月26日

会議の名称	平成29年第1回志木市上下水道事業審議会
開催日時	平成29年10月26日（金）14時00分～15時30分
開催場所	水道庁舎2階 会議室
出席委員	横内 晃 委員（会長）、 岩下 正基 委員（副会長）、 伊藤 満枝 委員、 上野 剛彦 委員、上原 実 委員、 木下 武久 委員、 高橋 好江 委員、濱岡 慎也 委員、 高山 裕子 委員、 (計 9人)
欠席委員	島田 和夫 委員 (計 1人)
説明者	(上下水道総務課) 渋谷参事兼課長 (下水道施設課) 原田課長、武田主幹、山中主査、福田技師 (計 6人)
議題	1 議事 (1) 志木公共下水道における長寿命化対策の推進（第2期） の事後評価について (2) 新河岸第16-1-2処理分区への区域外流入について (3) 柳瀬第10-1-1号汚水幹線管きよ等に関する協定の 一部変更について 2 報告 (1) 平成28年度志木市水道事業会計・下水道事業会計決算 について (2) 水道ビジョンの策定について (3) その他

<p>結 果</p>	<p>1 議事（1）～（3）について、事務局から審議会委員に対して、議題について説明し、意見交換等を行った。</p> <p>2 報告（1）～（3）について、事務局から報告し、質疑応答を行った。</p> <p style="text-align: right;">（傍聴 0 人）</p>
<p>事 務 局</p>	<p>金子上下水道部長、渋谷参事兼上下水道総務課長、中森参事兼水道施設課長、原田下水道施設課長、長堀上下水道総務課主幹、武田下水道施設課主幹、山中下水道施設課主査、福田下水道施設課技師、矢部上下水道総務課主査</p> <p style="text-align: right;">以上 9 人</p>

審議内容の記録（審議経過、結論等）

- 1 開 会
- 2 事務局職員の紹介
- 3 会長あいさつ
- 4 議 事

(1) 志木公共下水道における長寿命化対策の推進（第2期）の事後評価について

（説明員）

志木公共下水道における長寿命化対策の推進（第2期）の事後評価について説明する。

平成27年度から平成31年度の五か年計画である。

1 本目が新河岸第16-3処理分区下水道管路施設の長寿命化計画（マンホール蓋）に基づく対策工事である。

平成27年度に77基、平成28年度に73基で、150基を実施した。

2 本目が第15処理分区下水道管路施設の長寿命化である。

平成29年から平成30年にかけて対象地区の長寿命化をはかるものだったが、ストックマネジメント移行に伴う計画の見直しで補助による調査は未実施であり、市の単費で実施予定である。

（委 員）

マンホールが150基ということで、他の地域でも交換の必要があるのか。

（説明員）

他の地域はこれから調査を行い、必要があるものは実施していく予定である。

（委 員）

この事業そのものに関しては、評価できるものとする。

(2) 新河岸第16-1-2処理分区への区域外流入について

（説明員）

新河岸第16-1-2処理分区への区域外流入について説明する。

富士見市の公共下水を志木市の公共下水に流すものである。

これについては、富士見市と志木市で覚書を締結している。

工事は来年度からの三か年計画で、実際の受け入れは平成31年度の予定である。維持管理負担金の協定については調整中である。

(委員)

このようなことが一般的にあることなのか。

(説明員)

志木市が下水を流しているところは流域下水道といって、和光の処理場まで流れているものである。

国道463号線にある「流域下水道人孔」に富士見市の新河岸第16-1-1処理分区の下水を流す計画がある。

(委員)

この地域は、現在は浄化槽なのか。

(説明員)

浄化槽または汲み取りとなっている。

(3) 柳瀬第10-1-1号汚水幹線管きよ等に関する協定の一部変更について

(説明員)

柳瀬第10-1-1号汚水幹線管きよ等に関する協定の一部変更について説明する。

昭和62年に結んでいる協定であるが、面積の変更により負担割合が変わることに伴い協定も一部変更するものである。

(委員)

協定を一部変更するというものであり、問題はないと思う。

(4) 平成28年度志木市水道事業会計・下水道事業会計決算について

(説明員)

志木市水道事業会計・下水道事業会計決算書、上下水道事業統計に基づいて説明する。

水道事業より、決算書3ページ損益計算書を使用して、営業収益から順に項目ごとに決算概要を、23ページ企業債明細書については、未償還残高について説明する。

事業統計8、9ページ事業の推移を使用して給水人口、有収水量及び給水原価の対前年度伸率を説明する。

下水道事業より、決算書29ページ損益計算書を使用して、営業収益から順に項目ごとに決算概要を、50ページ企業債明細書については、未償還残高につ

いて説明する。

事業統計 61 ページ整備状況（普及状況）を使用して、汚水処理量、使用料単価及び汚水処理原価について対前年度伸率を説明する。

（委員）

決算書 4 ページ平成 28 年度志木市水道事業剰余金計算書にある減債積立金約 1 億 5 千 9 百万円とは何か。

（説明員）

企業債の返済を目的として積み立てているものである。

（委員）

経営は成果が出ていると考えてよいか。

（説明員）

平成 29 年度からは、ワイスレダリー跡地やダイエー跡地などの大規模なマンションの建設予定がないため加入金を見込めなくなった。平成 28 年度は起債がなかったが、今後は起債を予定している。

水道ビジョンを基に、現在、経営戦略を作成中である。

（5）水道ビジョンの策定について

（説明員）

平成 27・28 年度で作成し、平成 38 年度の目標数値が入っている。

これを基に経営戦略を作成している。

（委員）

水道ビジョンはどこで見られるのか。

（説明員）

基本的には、ホームページに掲載しているのでそれを見ていただく。

（6）その他

（説明員）

下水道に関しても平成 28・29 年度で経営戦略を策定するので、今後意見を伺いたい。

（以上で上下水道事業審議会を終了。）